結 果 の 概 要

Ｖ　年間収入の分布等

１　年間収入階級別の世帯分布

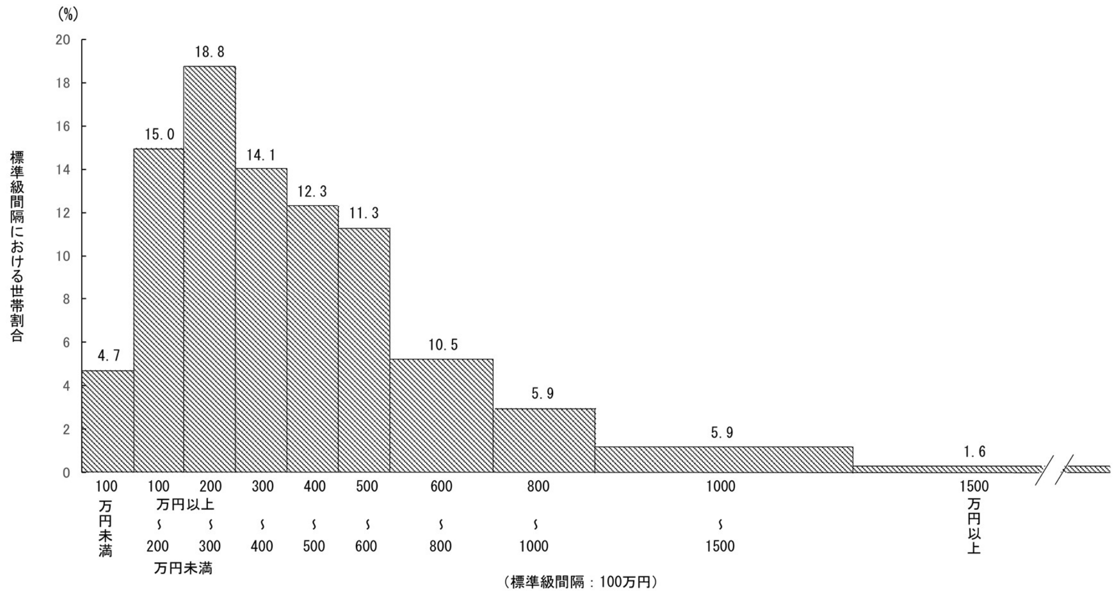
年間収入階級別の世帯分布は 200～300 万円の 18.8%がピーク

総世帯の年間収入階級別（標準級間隔 100 万円）の世帯分布をみると、100 万円未満が 4.7%、100～200 万円が 15.0%と年間収入階級が高くなるに従って多くなり、200～300 万円の 18.8%をピークに、年間収入階級が高くなるに従って少なくなっている。

表Ｖ－１　年間収入階級別世帯分布（総世帯）

年間収入階級	世帯割合（%）
100 万円未満	4.7
100 万円～200 万円未満	15.0
200 万円～300 万円未満	18.8
300 万円～400 万円未満	14.1
400 万円～500 万円未満	12.3
500 万円～600 万円未満	11.3
600 万円～800 万円未満	10.5
800 万円～1000 万円未満	5.9
1000 万円～1500 万円未満	5.9
1500 万円以上	1.6

図Ｖ－１　年間収入階級別世帯分布（総世帯）



注　標準級間隔 100 万円の各階級（年間収入 600 万円未満）の度数は縦軸目盛りと一致するが、年間収入 600 万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

２　年間可処分所得階級別の世帯分布

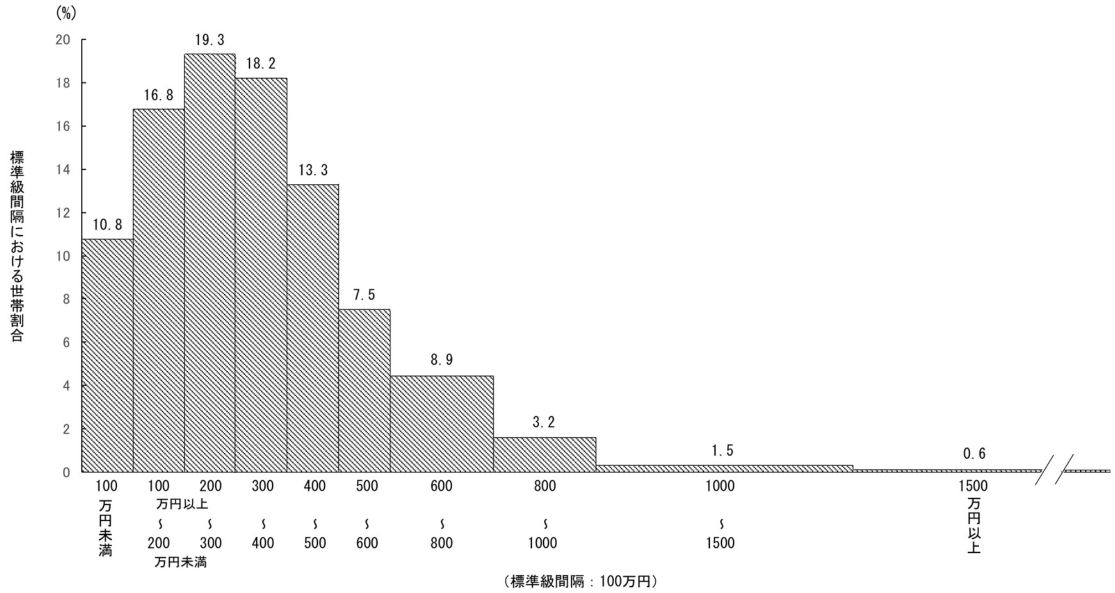
年間可処分所得階級別の世帯分布は 200～300 万円の 19.3%がピーク

総世帯の年間可処分所得階級別（標準級間隔 100 万円）の世帯分布をみると、100 万円未満が 10.8%、100～200 万円が 16.8%と年間可処分所得階級が高くなるに従って多くなり、200～300 万円の 19.3%をピークに、年間可処分所得階級が高くなるに従って少なくなっている。

表Ⅴ－２　年間可処分所得階級別世帯分布（総世帯）

年間可処分所得階級	世帯割合（%）
100 万円未満	10.8
100 万円～200 万円未満	16.8
200 万円～300 万円未満	19.3
300 万円～400 万円未満	18.2
400 万円～500 万円未満	13.3
500 万円～600 万円未満	7.5
600 万円～800 万円未満	8.9
800 万円～1000 万円未満	3.2
1000 万円～1500 万円未満	1.5
1500 万円以上	0.6

図Ⅴ－２　年間可処分所得階級別世帯分布（総世帯）



注　標準級間隔 100 万円の各階級（年間可処分所得 600 万円未満）の度数は縦軸目盛りと一致するが、年間可処分所得 600 万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

３　年間可処分所得階級別の金融資産残高及び金融負債残高

金融資産残高及び金融負債残高は年間可処分所得階級が高くなるに従って多くなる傾向

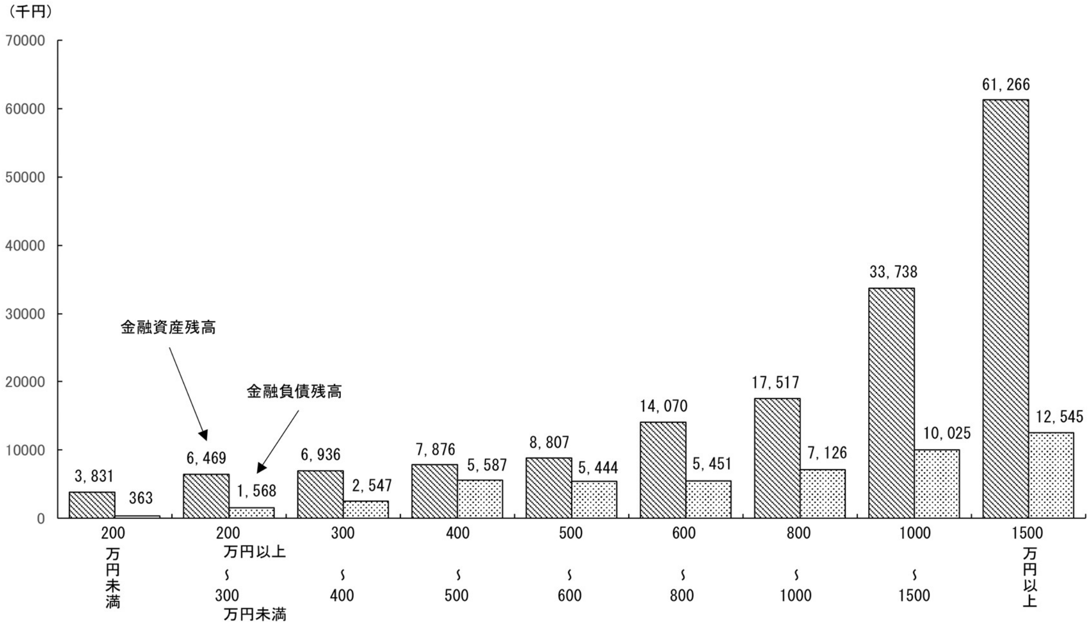
総世帯の金融資産残高を年間可処分所得階級別にみると、年間可処分所得階級が高くなるに従って多くなっている。

また、総世帯の金融負債残高は、400～500 万円、500～600 万円及び 600～800 万円の年間可処分所得階級がほぼ同額であるものの、年間可処分所得階級が高くなるに従って多くなる傾向にある。

表Ｖ－３　年間可処分所得階級別金融資産残高及び金融負債残高（総世帯）

年間可処分所得階級	金融資産残高（千円）	金融負債残高（千円）
200 万円未満	3,831	363
200 万円～300 万円未満	6,469	1,568
300 万円～400 万円未満	6,936	2,547
400 万円～500 万円未満	7,876	5,587
500 万円～600 万円未満	8,807	5,444
600 万円～800 万円未満	14,070	5,451
800 万円～1000 万円未満	17,517	7,126
1000 万円～1500 万円未満	33,738	10,025
1500 万円以上	61,266	12,545

図Ｖ－３　年間可処分所得階級別金融資産残高及び金融負債残高（総世帯）



Ⅵ　資産の分布

１　金融資産残高階級別の世帯分布

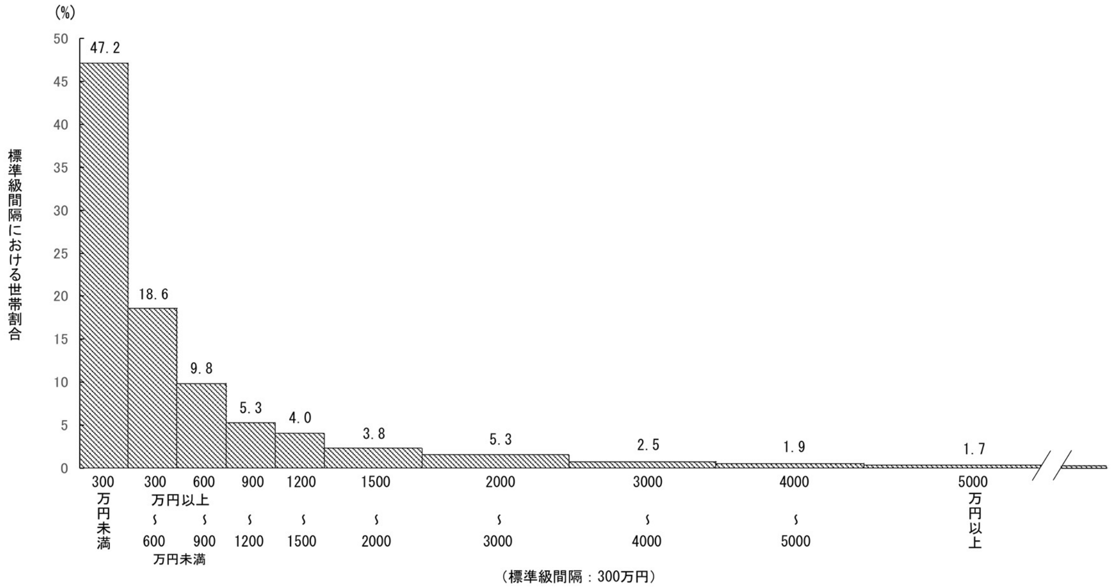
金融資産残高の少ない階級に偏った世帯分布

総世帯の金融資産残高階級別（標準級間隔 300 万円）の世帯分布をみると、300 万円未満が 47.2％、300～600 万円が 18.6％、600～900 万円が 9.8％と、金融資産残高の少ない階級に偏った分布となっている。

表Ⅵ－１　金融資産残高階級別世帯分布（総世帯）

金融資産残高階級	世帯割合（%）
300 万円未満	47.2
300 万円～600 万円未満	18.6
600 万円～900 万円未満	9.8
900 万円～1200 万円未満	5.3
1200 万円～1500 万円未満	4.0
1500 万円～2000 万円未満	3.8
2000 万円～3000 万円未満	5.3
3000 万円～4000 万円未満	2.5
4000 万円～5000 万円未満	1.9
5000 万円以上	1.7

図Ⅵ－１　金融資産残高階級別世帯分布（総世帯）



注　標準級間隔 300 万円の各階級（金融資産残高 1500 万円未満）の度数は縦軸目盛りと一致するが、金融資産残高 1500 万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

２　家計資産総額階級別の世帯分布

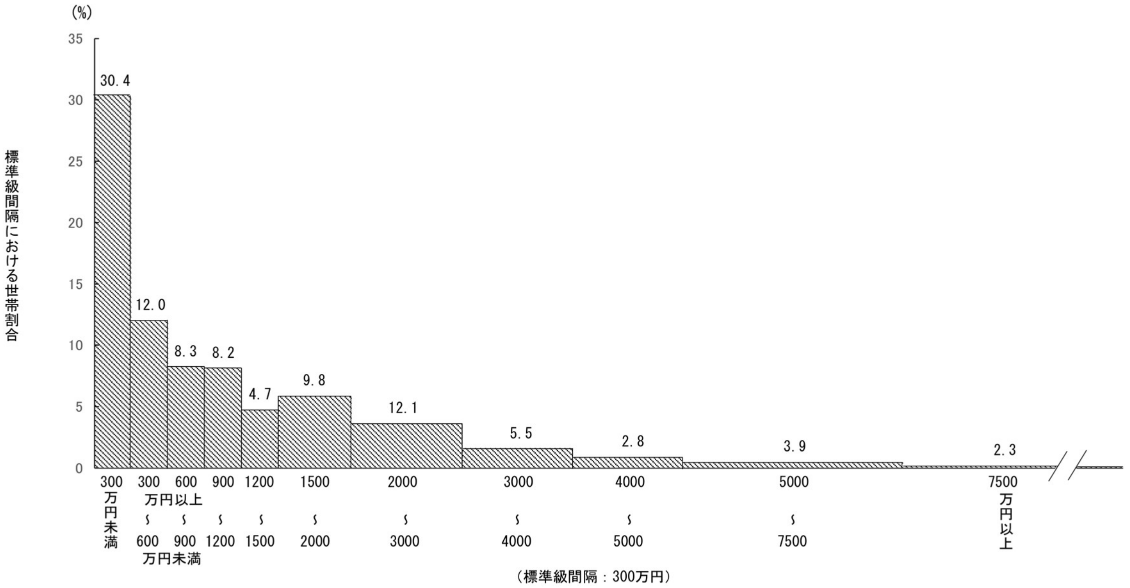
家計資産総額の少ない階級に偏った世帯分布

総世帯の家計資産総額階級別（標準級間隔 300 万円）の世帯分布をみると、300 万円未満が 30.4％、300～600 万円が 12.0％、600～900 万円が 8.3％と、家計資産総額の少ない階級に偏った分布となっている。

表Ⅵ－２　家計資産総額階級別世帯分布（総世帯）

家計資産総額階級	世帯割合（％）
300 万円未満	30.4
300 万円～600 万円未満	12.0
600 万円～900 万円未満	8.3
900 万円～1200 万円未満	8.2
1200 万円～1500 万円未満	4.7
1500 万円～2000 万円未満	9.8
2000 万円～3000 万円未満	12.1
3000 万円～4000 万円未満	5.5
4000 万円～5000 万円未満	2.8
5000 万円～7500 万円未満	3.9
7500 万円以上	2.3

図Ⅵ－２　家計資産総額階級別世帯分布（総世帯）



注　標準級間隔 300 万円の各階級（家計資産総額 1500 万円未満）の度数は縦軸目盛りと一致するが、家計資産総額 1500 万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

Ⅶ　年間収入・資産分布の均等度に関する指標（ジニ係数）

等価可処分所得のジニ係数は全国のジニ係数とほぼ同じ
資産面のジニ係数は所得面のジニ係数と比較して高い

2019年の等価可処分所得のジニ係数（新基準に準拠）は0.290となっており、全国のジニ係数とほぼ同じ数値となっている。

また、等価金融資産残高のジニ係数は0.689、等価住宅・宅地資産額のジニ係数は0.583となっており、いずれも等価可処分所得のジニ係数と比較して高くなっている。

表Ⅶ－１　等価可処分所得、等価金融資産残高及び等価住宅・宅地資産額のジニ係数

	等価可処分所得	等価金融資産残高	等価住宅・宅地資産額
全　国	0.288	0.664	0.643
宮崎県	0.290	0.689	0.583

注　等価可処分所得は新基準に準拠した算出方法による。

参考表１　主要７か国の等価可処分所得のジニ係数

国名（調査年）	ジニ係数
アメリカ（2017年）	0.390
イギリス（2019年）	0.366
イタリア（2018年）	0.330
フランス（2018年）	0.301
カナダ　（2019年）	0.301
ドイツ　（2018年）	0.289
日本　　（2019年）	0.288

注　新基準に準拠した算出方法による。

（出典）日本………全国家計構造調査結果
日本以外…OECD Income(IDD) and Wealth(WDD) Distribution Databases
(https://www.oecd.org/social/soc/IDD-Key-Indicators.xlsx)